

「第23回日本看護管理学会学術集会」開催に向けて

参加者
求む

学術集会長・前田樹海氏に聞く、今回の見どころ

2019年8月23日(金)・24日(土)、新潟市の朱鷺メッセで第23回日本看護管理学会学術集会が開催されます。本稿では、学術集会長の前田樹海氏(東京有明医療大学)のインタビューをもとに、学術集会の見どころなどを紹介します。(本誌編集室)

大会テーマに込めた思い

今回の大会テーマは「看護管理の流儀—最適解への道程」です。「流儀」と言うどうしても大きな意味に捉えられがちですが、看護管理者1人ひとりが頭に持っているそれぞれのしきたりやルールのようなものをイメージしています。

学術集会の参加者は経験豊富な看護管理者が多く、経験によって培われたさまざまな実践知やルールが頭の中に蓄積されていると思います。そのような実践知

やルールが現場での判断基準として使われていると思うのですが、それこそまさに「流儀」と呼べるもので、「私的に構築された理論」と言っても過言ではありません。

一方で、それらの「私的理論」は、共有する機会が少なかったように感じています。今学術集会では、そのような経験に基づく「私的理論」も1つの法則として、皆でシェアして立証する機会になることを願っています。それが新たな看護管理理論の種になると確信していますし、蒔かれた種から芽が出るかは、今後さまざまな研究で明らかになっていくと思います。今学術集会がそのきっかけになり、ひいては将来の看護管理の発展に役立つことを期待しています。

学術集会の特徴的なプログラム

今学術集会では、次のような特徴的なプログラムがあります。

特徴その1 参加者1人ひとりが主役

今学術集会は、参加者1人ひとりが主役だと考えています。主役である参加者に、これまでの看護管理や看護実践を自由に語っていただき、さまざまな経験や自分の流儀、悩みなどを1人で抱えないで、他の看護管理者と共有するための企画を考えています。

例えば、特別企画の「看護師長集まれ!『えんたくん』でワールドカフェ」—悩みや課題、成果を共有し、これからのマネジメントをみんなで創造しよう!—「みんなで自分の看護管理実践を語ろう!振り返ろう!気ままにリフレクション!」など、参加者が主役となって語り合い、共感し合う体験をするこれらの企画は、新たな試みであり、参加者の皆さんにとっても施設を超えて看護管理を語り合う貴重な機会になるのではないのでしょうか。

特徴その2

多職種とのコラボレーションと学際的な発表

今学術集会での試験的な試みとして、当学会非会員でも一般演題の共同研究者として名前を連ねることが可能となりました。昨今、チーム医療や地域包括ケアの名のもと、多職種連携が進んでいる中で、研究報告、実践報告にはさまざまな職種の人々が参加していると思いますし、そのような多職種でコラボレーションをした結果を発表する機会が必要だと日々感じていました。

私自身の行っている研究にも、経済学者や心理学者と協働して行っているものがあり、このような研究の成果も発表しやすくなりました。これにより新たな領域の参加者が増えることも期待しています。

特徴その3 学生の参加の促進

今学術集会では、学生の皆さんにも積極的に参加していただきたいと思っています。

学生料金を設定しているほか、新たな試みとして看護学生向け企画「看護管理ってなんだ?学会ってなんだ??せっかく参加したんだから、ちょっと勉強してみませんか?」を企画しました。これは、学会とは何か、どんな場所なのかというそもそも論から、どのように振るまって、どのようなお土産を持ち返るのかを、学生さんに向けて指南するセッションで、1日目と2日目のそれぞれに用意しています。

このセッションが学会参加の呼び水となって、普段会うことのないような先生方との交流や、別の学会への参加につながればいいなと思っています。

管理マインドは管理者になってからいきなり持つものではなく、学生のうちから触れておくことが大切です。学術集会がその機会になると思いますし、学会の役割の1つとしても、学生のモチベーションアップにつなげていきたいと考え

特別企画

「えんたくん」でワールドカフェ

悩みや課題、成果を共有し、
これからのマネジメントを
みんなで創造しよう

- ◎中野民夫 [東京工業大学]
- ◎浦山絵里 [ナースファシリテーター]
- ◎森雅浩 [Be-Nature School]
- ◎保田江美 [国際医療福祉大学]

ワールドカフェ形式で悩みや課題、成果を共有し、対話をしようという企画です。経験豊富な4人のファシリテーターが温かく、豊かな対話の場をサポートします。また、段ボールを加工した対話促進ツール「えんたくん」を用いて進めていきます。



大会ポスターを掲げる前田氏。ポスター内の袴を着た後姿は前田氏本人。

ています。

今学術集会でしか味わえない体験を

ここでは紹介しきれませんが、前述の企画の他にも、今学術集会ならではの企画が目白押しです（表）。

大会テーマにある「流儀」に関しては、連綿と続いている日本の伝統的な芸道に触れたいという思いがあり、華道の第4代池坊専好次期家元の講演を企画しました。女性で初めて池坊流の家元となり伝統ある巨大な組織を率いていくことと看護管理者との間には多くの共通点や学びがあるのではと考えています。

また、地元新潟の先進的な病院の取り組みなども豊富に企画しています。さらに、新潟ゆかりのドイツ文学者で看護にも造詣が深い眞壁伍郎氏（新潟大学名誉教授）による「いま地域は看護の智恵と力を待っている」と題する教育講演は、自分たちの看護を他者の視点で見つめ直す絶好の機会になると思います。

学術的な体験はもちろん、人との交流や、新潟の美味しい食べ物やお酒などもたっぷり味わって、さまざまなお土産を持ち帰っていただければと思います。「来てよかったな」「いろいろな収穫があったな」と少しでも感じてもらえれば、学術集会長としてこれほどうれしいことはありません。ぜひ、8月は、新潟にお越しください。

学術集会ウェブサイト

<https://confit.atlas.jp/janap23>

表 学術集会の主なプログラム

学術集会長講演

前田樹海（東京有明医療大学）

特別講演

- いのちをいかす いけばなの美と心／池坊専好（池坊次期家元）
- 職場環境は変えられる。明るい職場づくりのリード役を／麻生泰（麻生）

特別企画

- 看護師長集まれ! 「えんたくん」でワールドカフェ ―悩みや課題、成果を共有し、これからのマネジメントをみんなで創造しよう／中野民夫、浦山絵里、森雅浩、保田江美
- みんなで自分の看護管理実践を語ろう! 振り返ろう! 気ままにリフレクション!／司会：河野秀一（サフィール）、講師：西村宣子（千葉県立保健医療大学）、木村麻紀（国立がん研究センター中央病院）、山田みよ子（人間総合科学大学）
- 看護管理ってなんだ? 学会ってなんだ?? せっかく参加したんだから、ちょっと勉強してみませんか? 窪田和巳（横浜市立大学）、小嶋愛（虎の門病院）／遠藤良仁（岩手県立大学）、佐藤奈美枝（岩手医科大学）、鈴木恵美子（宮城県仙台市太白区保健福祉センター）

教育講演

- 看護×デザインで実現する 輝く職場環境・輝くわたし／戸倉蓉子（ドムスデザイン）
- 組織開発を活かした働き方改革の実現／中原淳（立教大学）
- 統計分析は言葉の意味にどこまで迫れるのか―自由記述やインタビューの計量テキスト分析に向けて／樋口耕一（立命館大学）
- いま地域は看護の智恵と力を待っている／眞壁伍郎（新潟大学名誉教授）

シンポジウム

- 看護の真髄を言語化し発信する（日本看護管理学会／日本医療・病院管理学会 ジョイント・リレー企画）／座長：佐々木美奈子（東京医療保健大学）、末永由里（同）、シンポジスト：坂本すが（東京医療保健大学）、喜多悦子（笹川保健財団）、迫田朋子（ジャーナリスト）、因京子（九州大学・九州工業大学）
- AI ホスピタルによる看護業務イノベーション／座長：前田樹海、鶴嶋英夫（筑波大学附属病院）、シンポジスト：中尾正寿（NTT 東日本関東病院）、森口真由美（北原国際病院）、内山秀文（FRONTEO ヘルスケア） 他7題

パネルディスカッション

- 大規模災害における看護管理者の役割／座長：中島美津子（東京医療保健大学）、パネリスト：藤原のり子（神戸市立医療センター中央市民病院）、藤井将志（谷田病院）、赤澤宏平（新潟大学医歯学総合病院）、大友浩平（せんカフェ）
- 看護管理者研修を管理実践につなげるための最適解を探る／座長：金井 Pak 雅子（関東学院大学）、箕浦洋子（関西看護医療大学）、パネリスト：中瀬美恵子（浅ノ川総合病院）、倉岡有美子（日本赤十字九州国際看護大学）

NA
REPORT

2019年7月11日時点